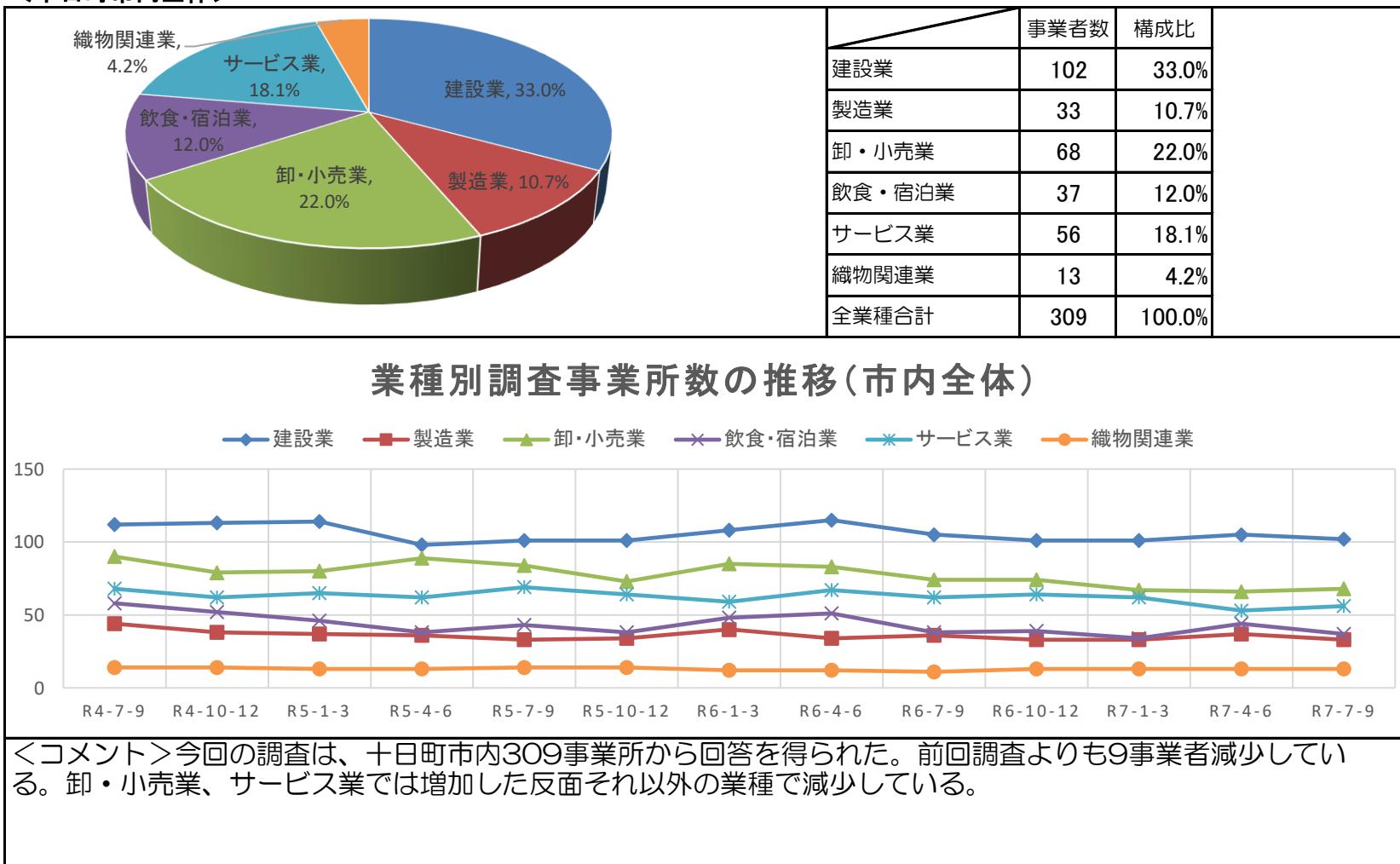


十日町市地域 企業景況調査 第2四半期報告書 (R7.7.1～R7.9.30) 会議所地区

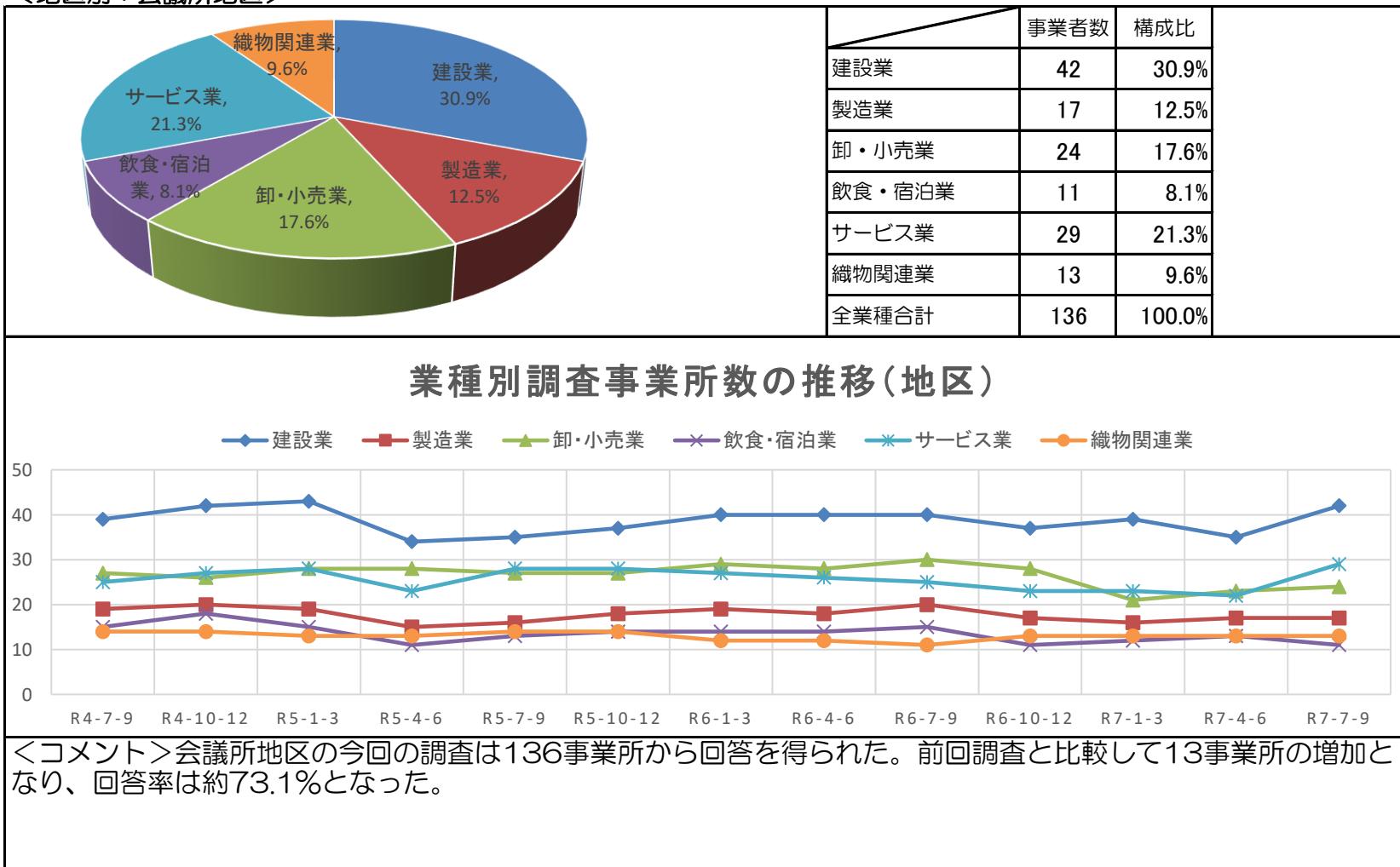
小規模事業者以外含む全事業所

◇ 調査対象事業所構成割合

<十日町市内全体>



<地区別：会議所地区>

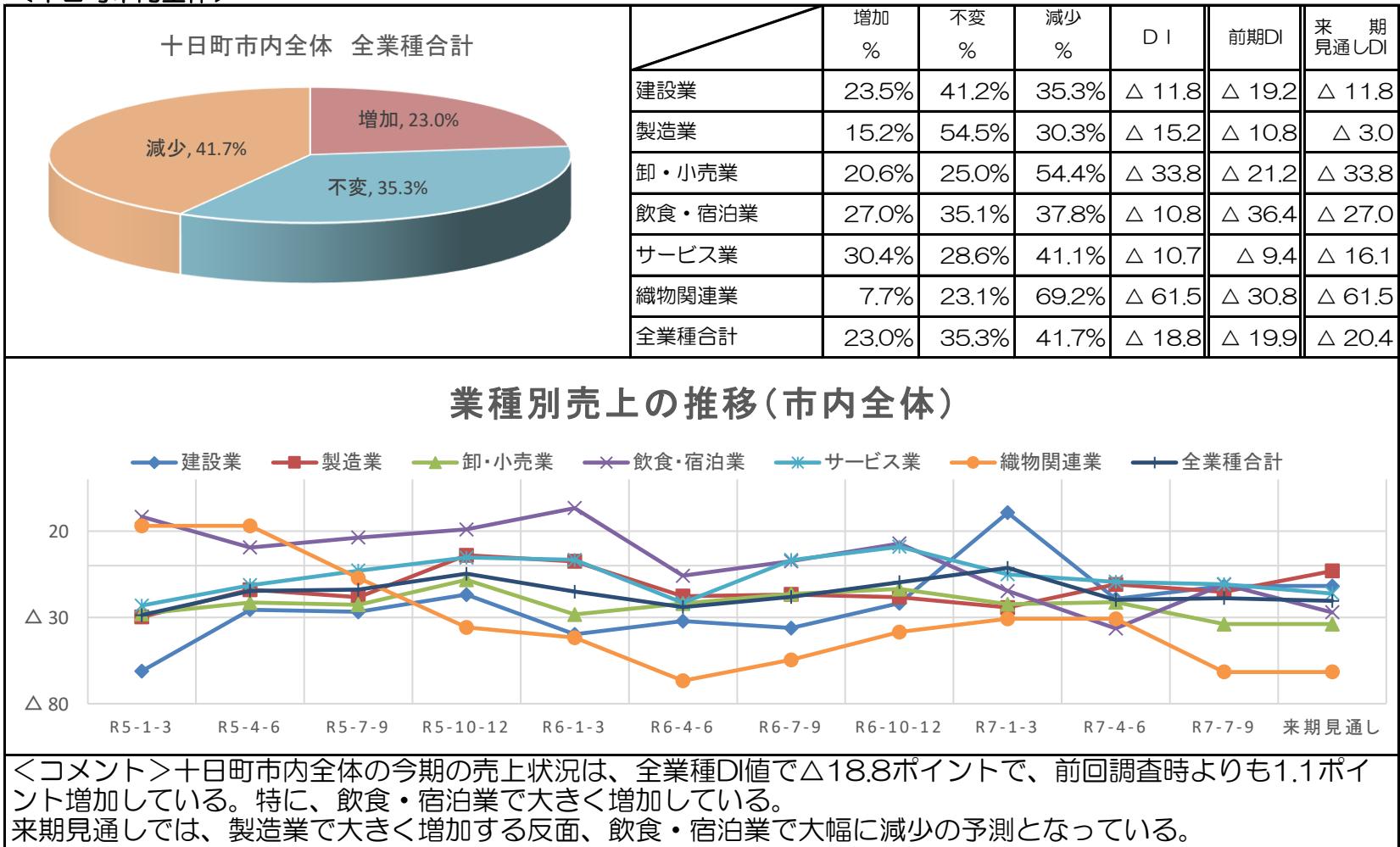


DI値（景況判断指数）＝（増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）

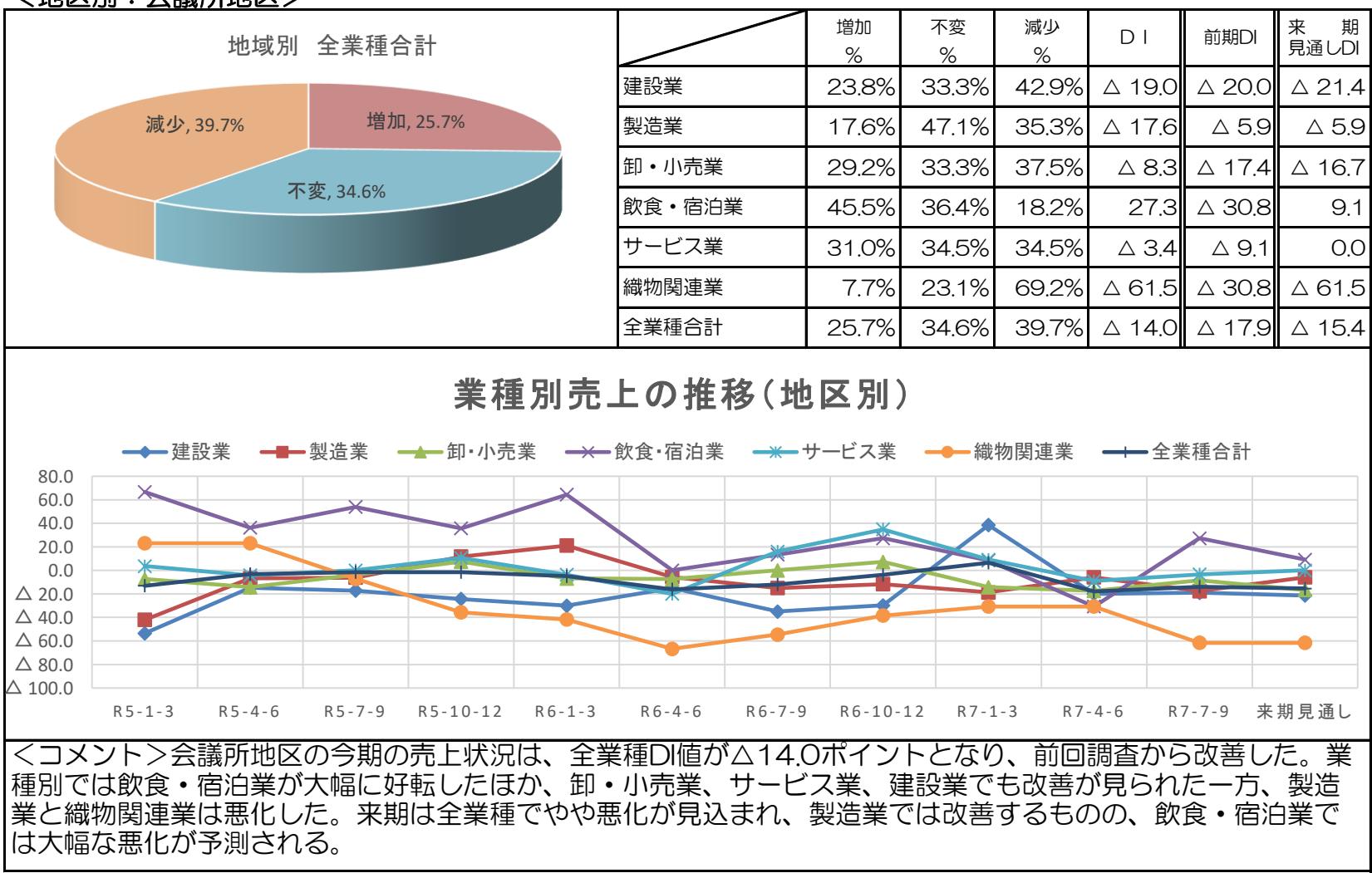
1. 売上について

- 7月～9月の売上は前年の同期に比べてどうですか？

＜十日町市内全体＞



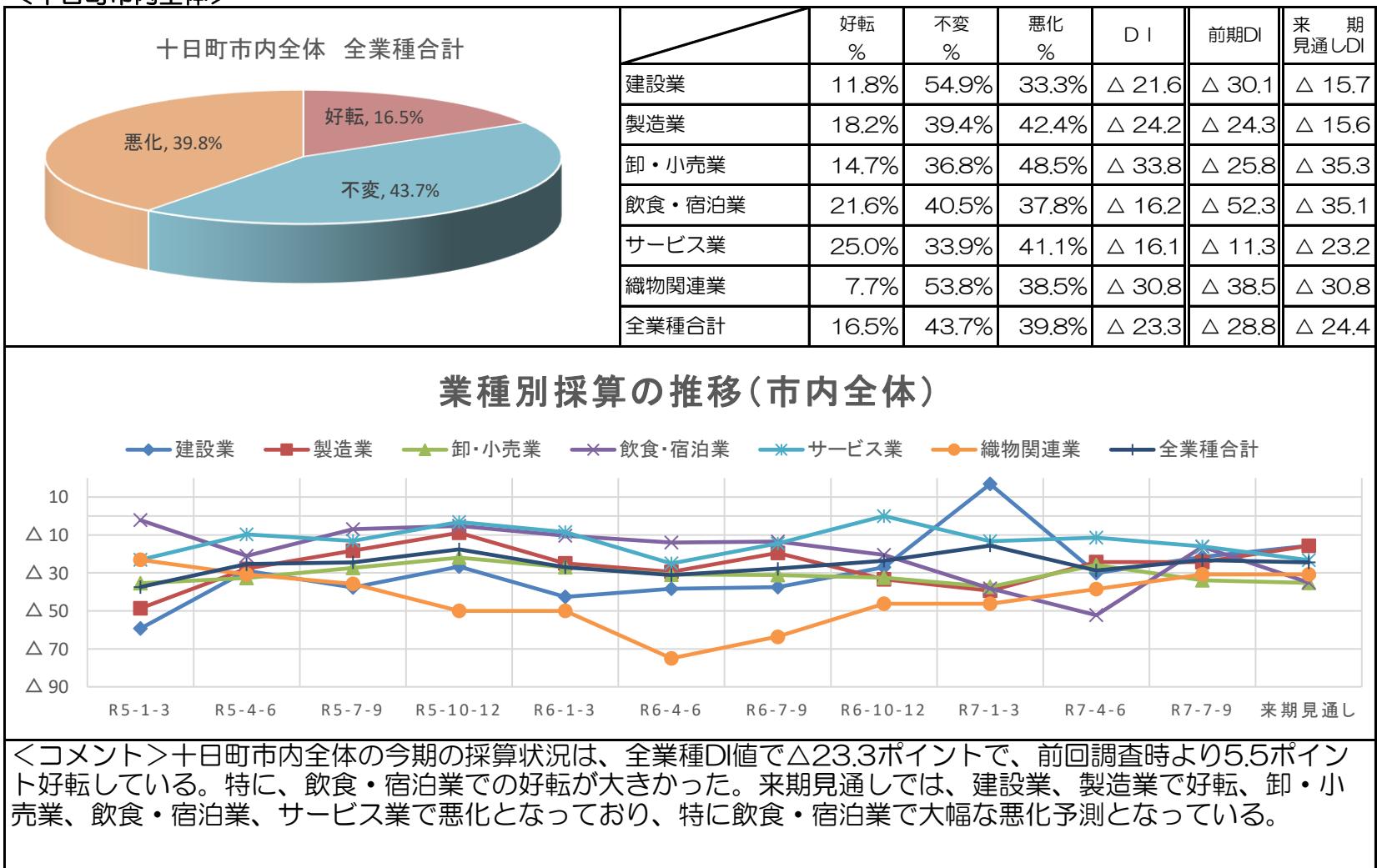
＜地区別：会議所地区＞



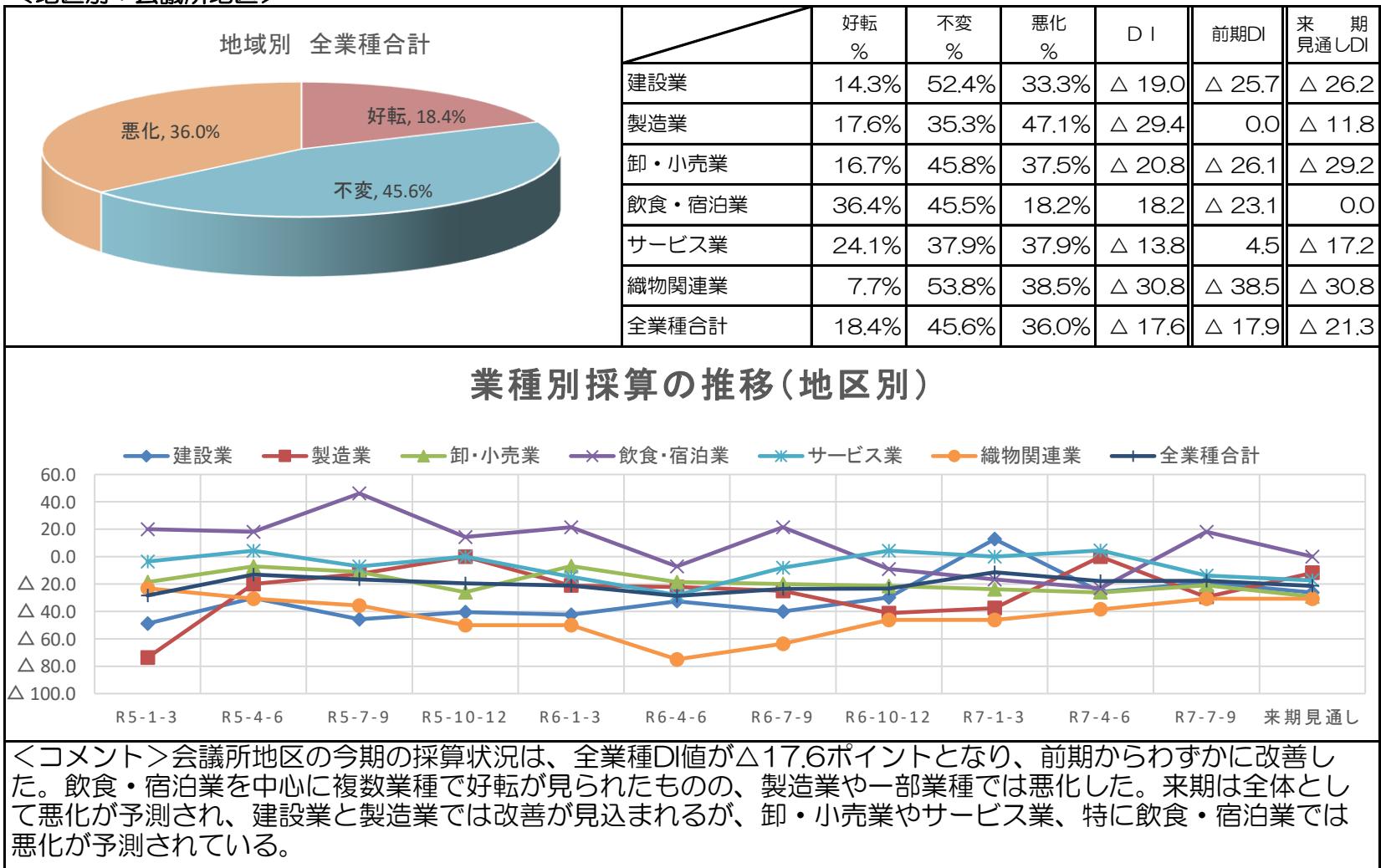
2. 採算について

- 7月～9月の採算は前年同期に比べてどうですか？

〈十日町市内全体〉



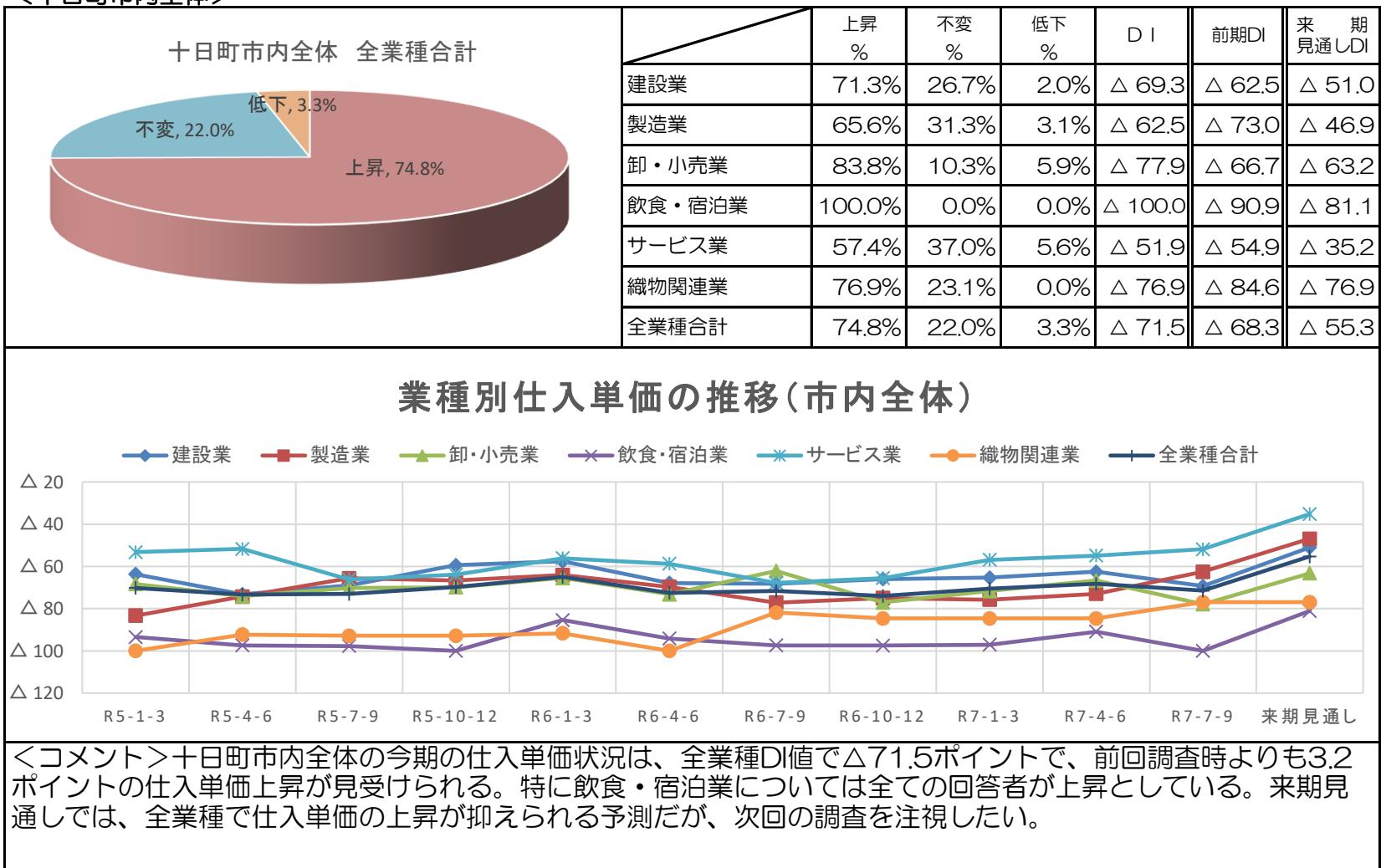
〈地区別：会議所地区〉



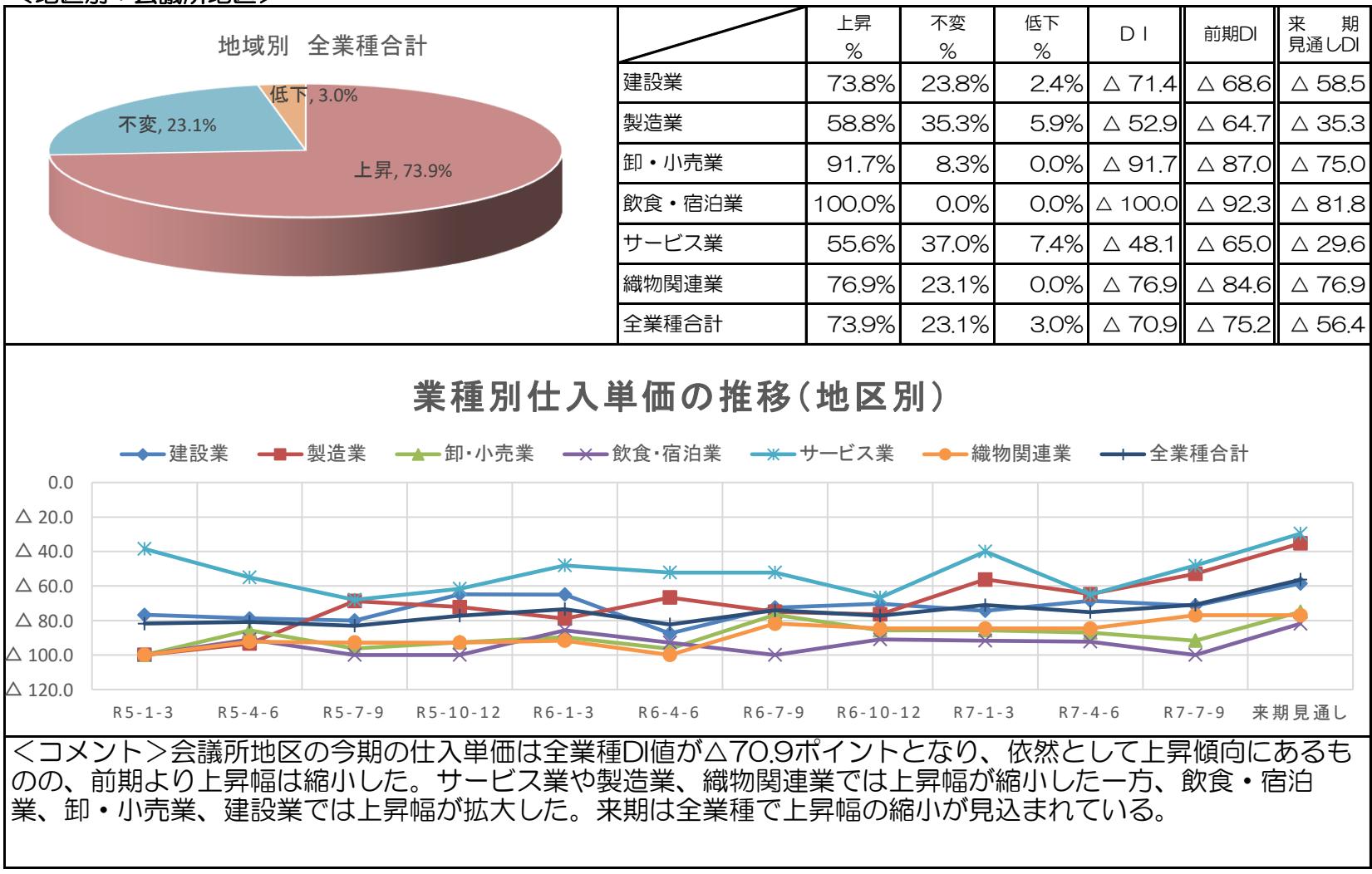
3. 仕入単価について

- 7月～9月の仕入単価は前年の同期に比べてどうですか？

〈十日町市内全体〉



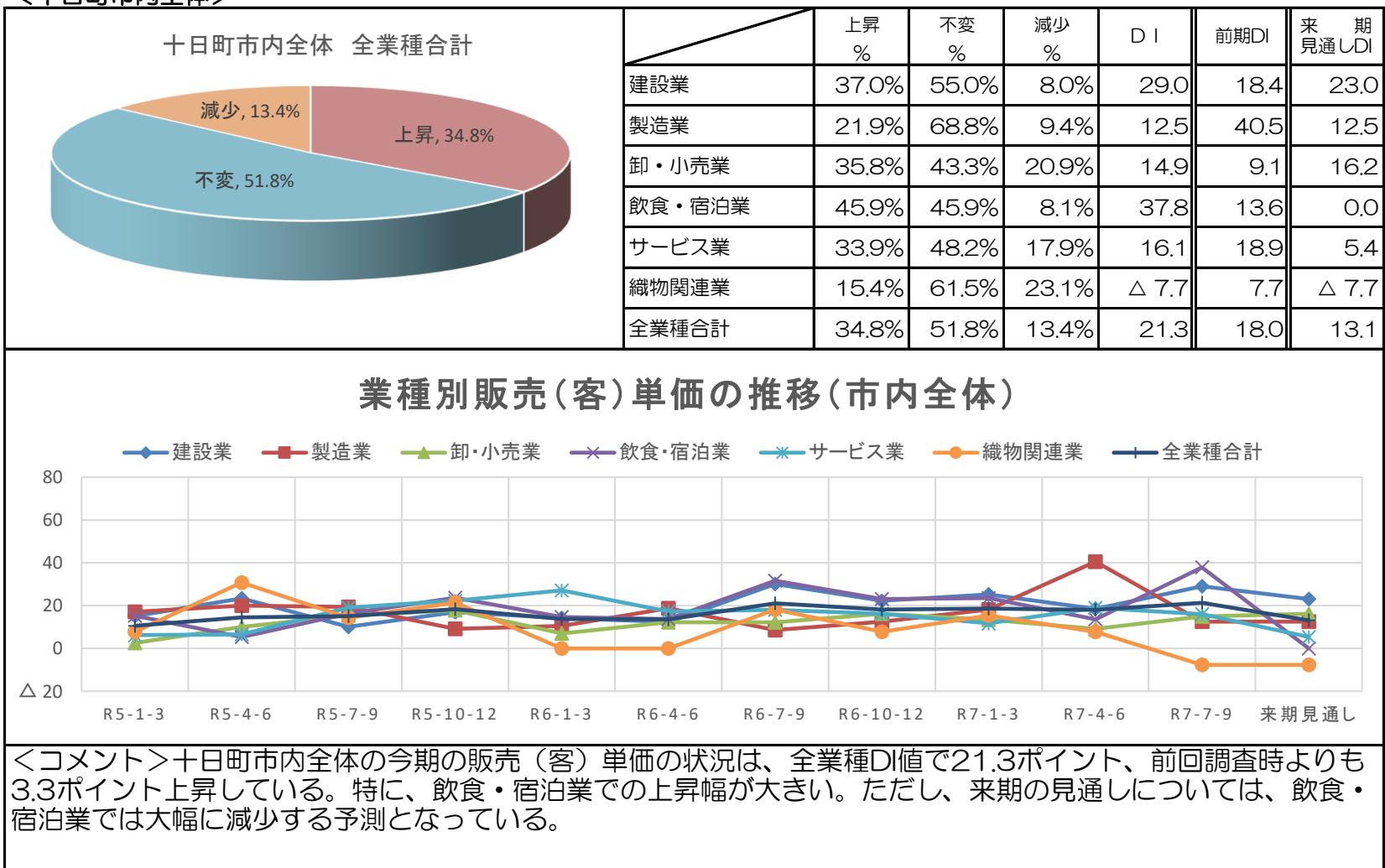
〈地区別：会議所地区〉



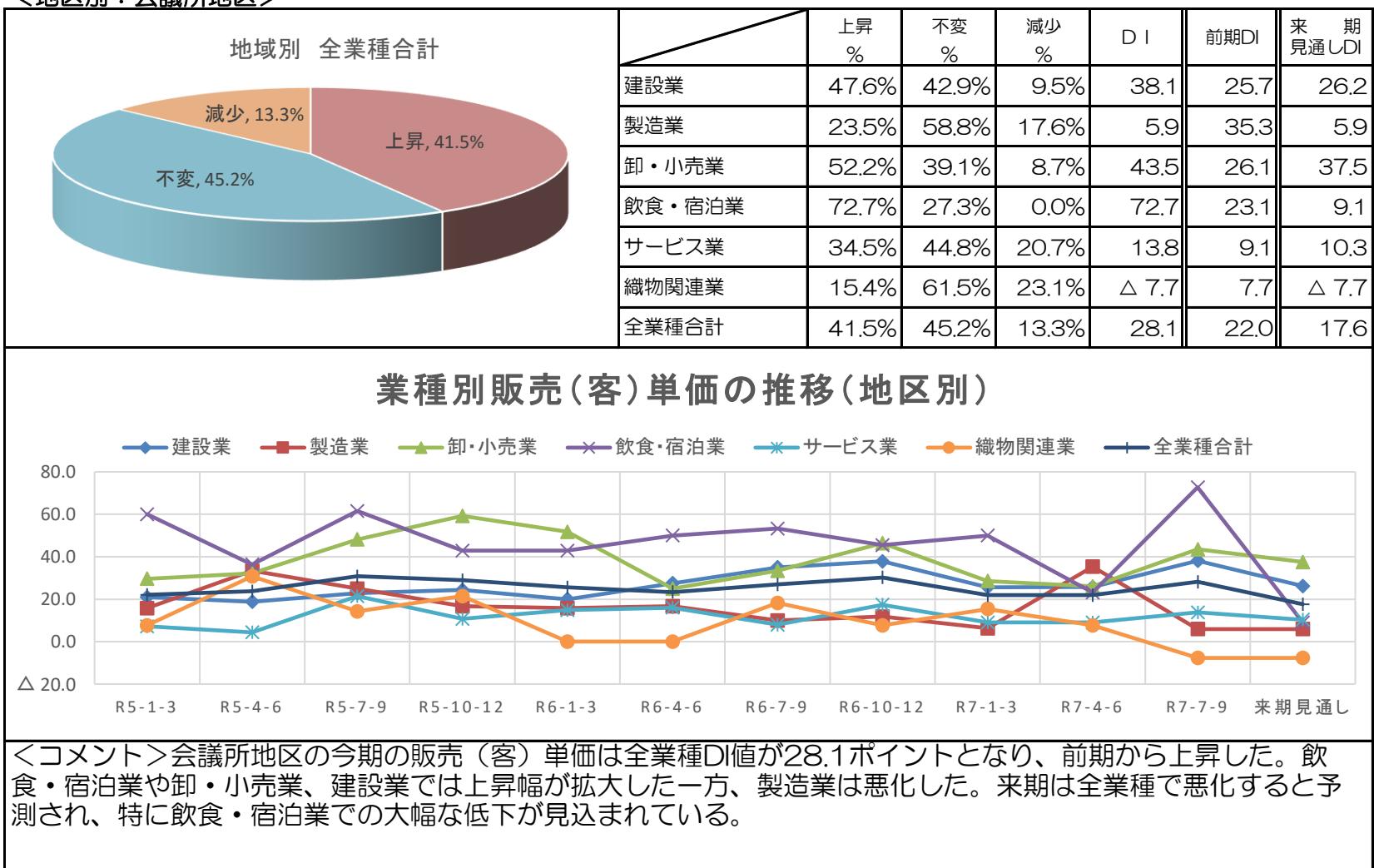
4. 販売(客)単価について

- 7月～9月の販売(客)単価は前年の同期に比べてどうですか？

〈十日町市内全体〉



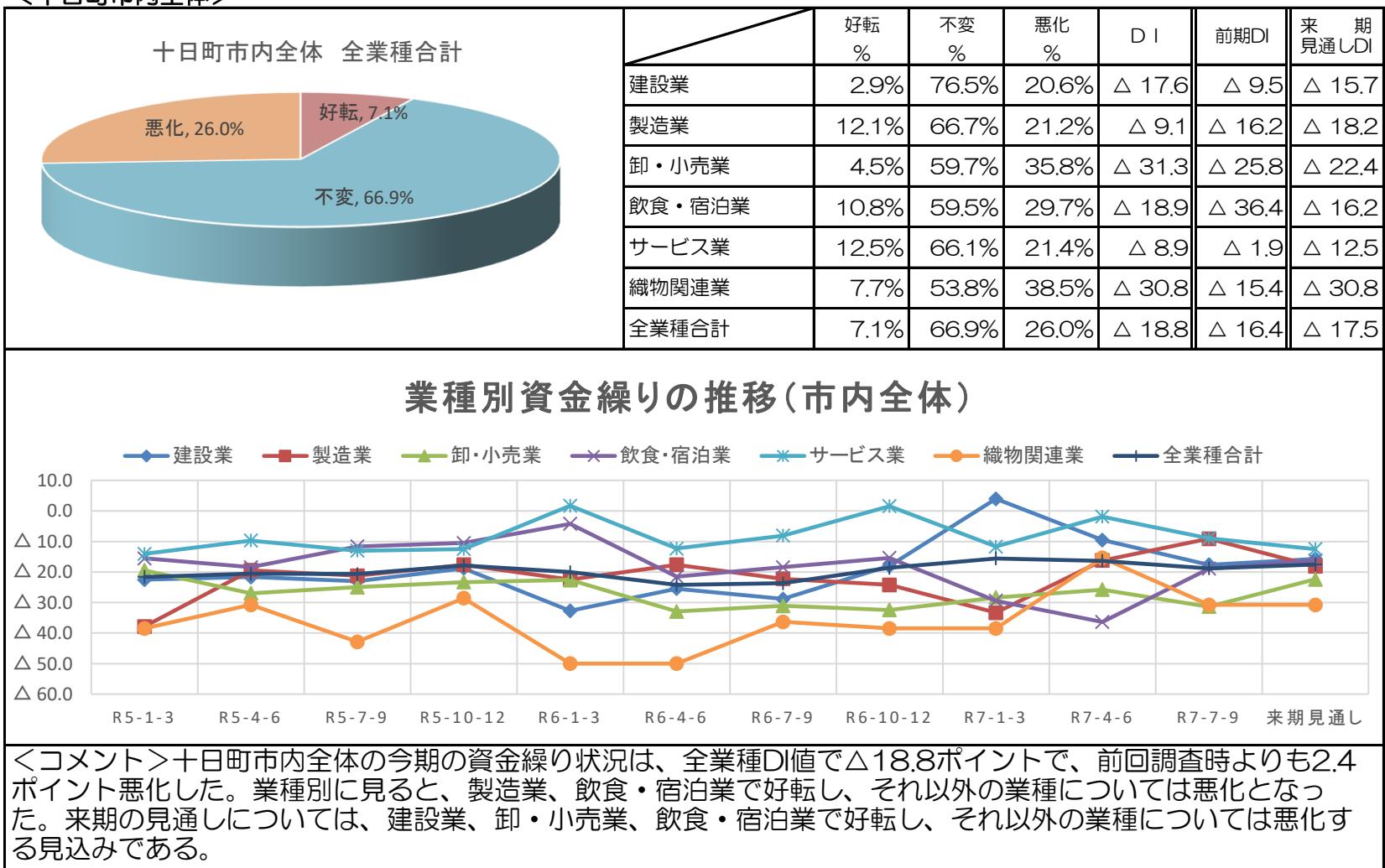
〈地区別：会議所地区〉



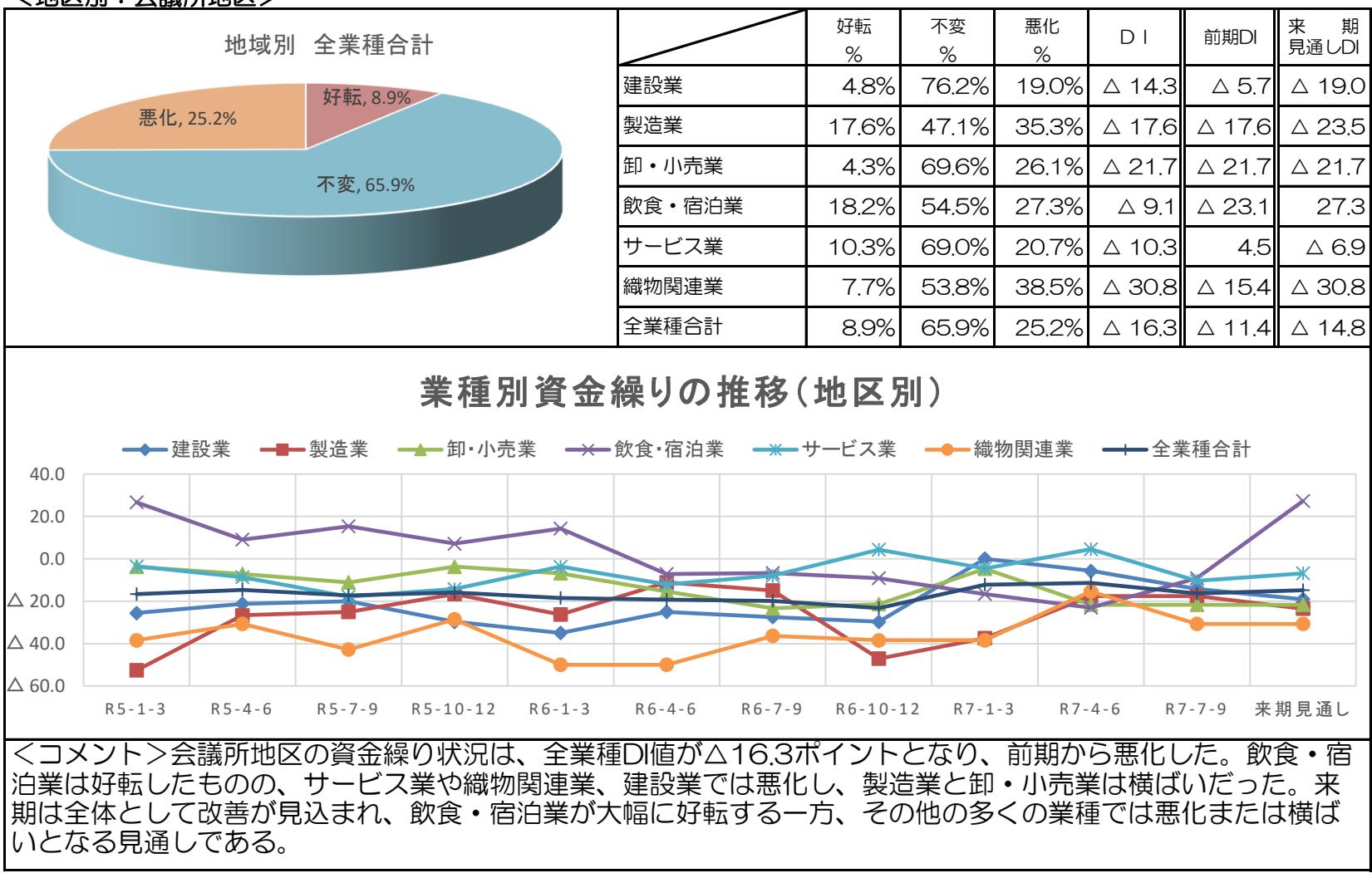
5. 資金繰りについて

- 7月～9月の資金繰りは前年の同期に比べてどうですか？

〈十日町市内全体〉



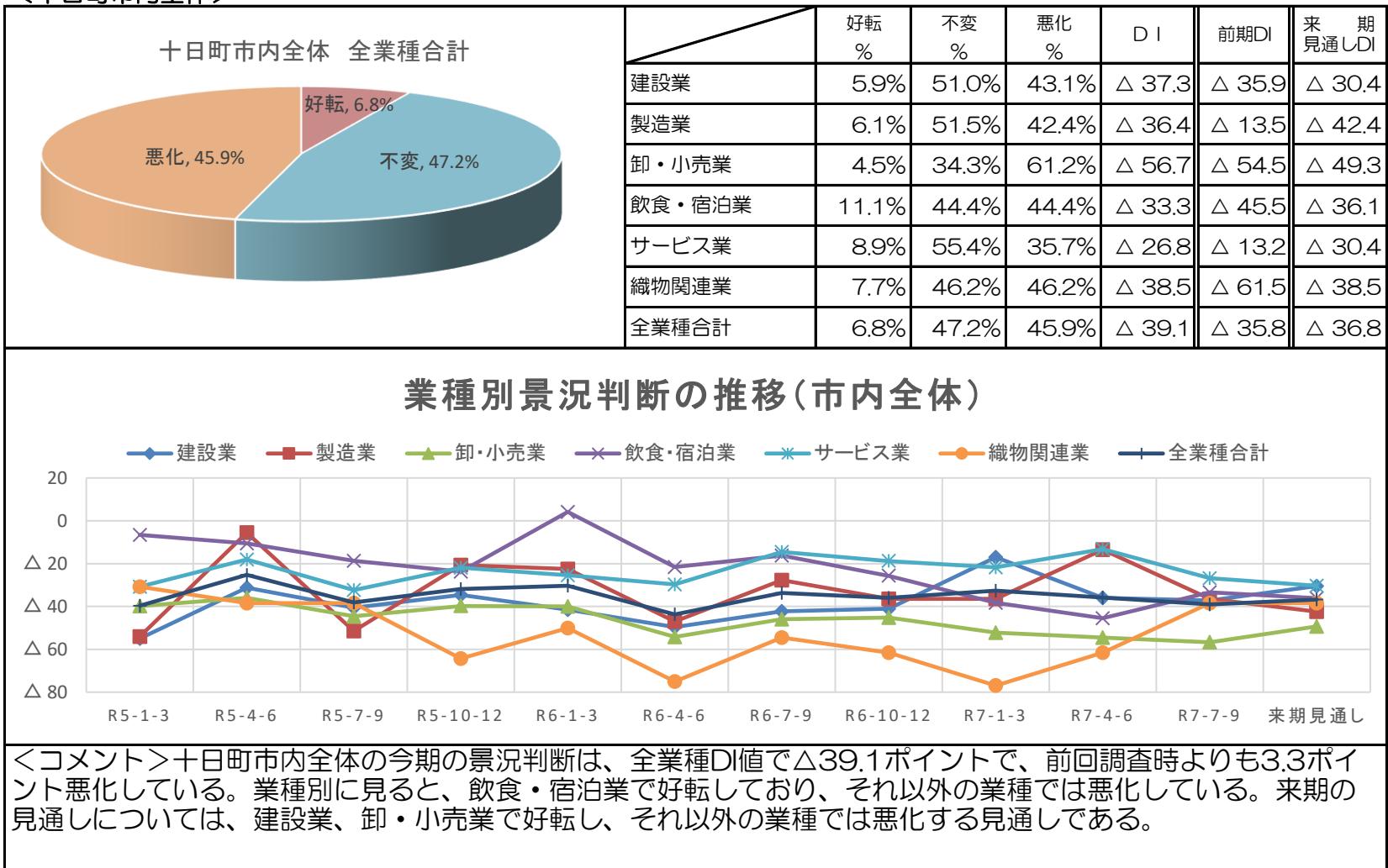
〈地区別：会議所地区〉



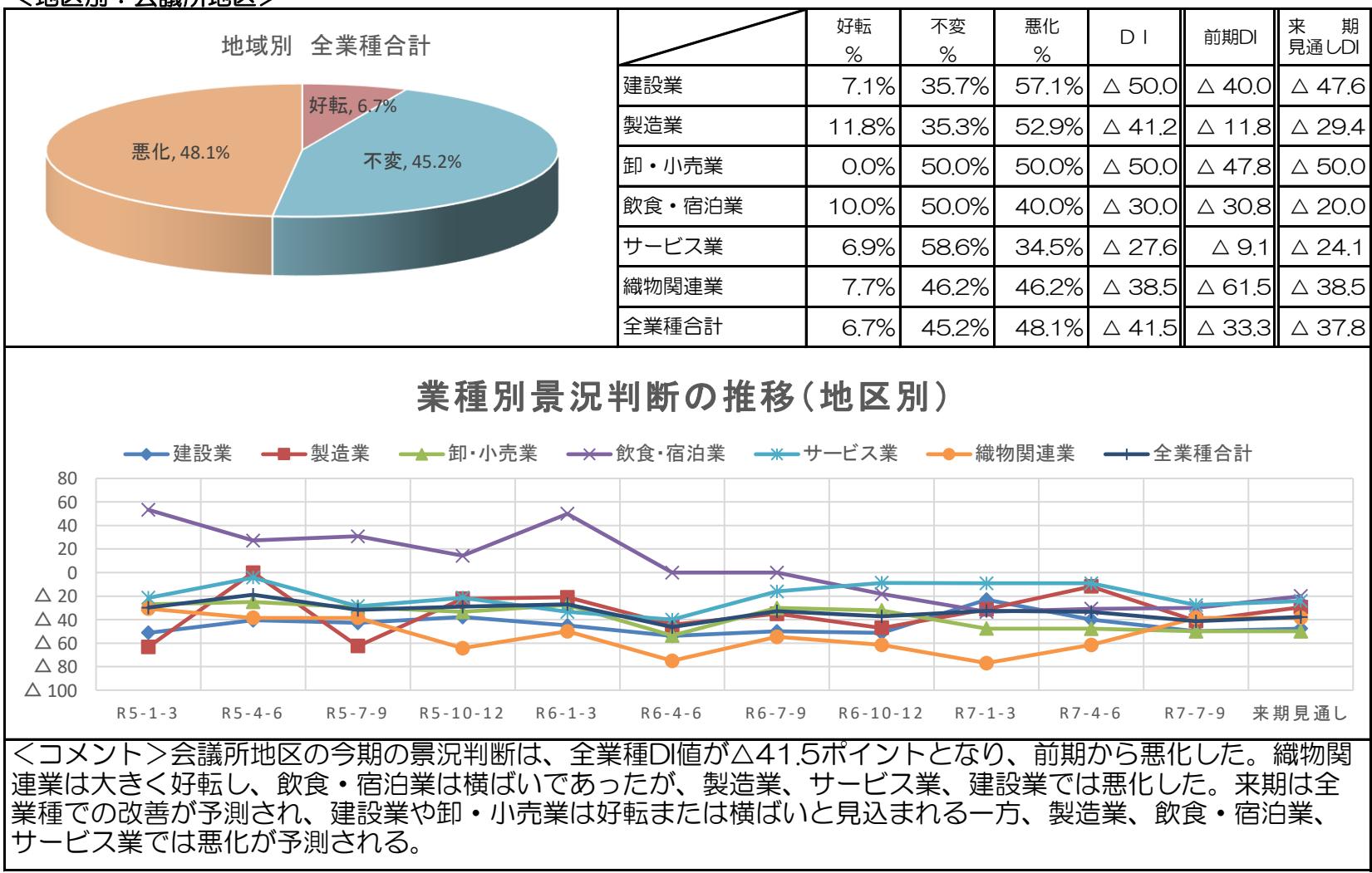
6. 景況判断について

- 7月～9月の景況は前年同期に比べてどうですか？

〈十日町市内全体〉



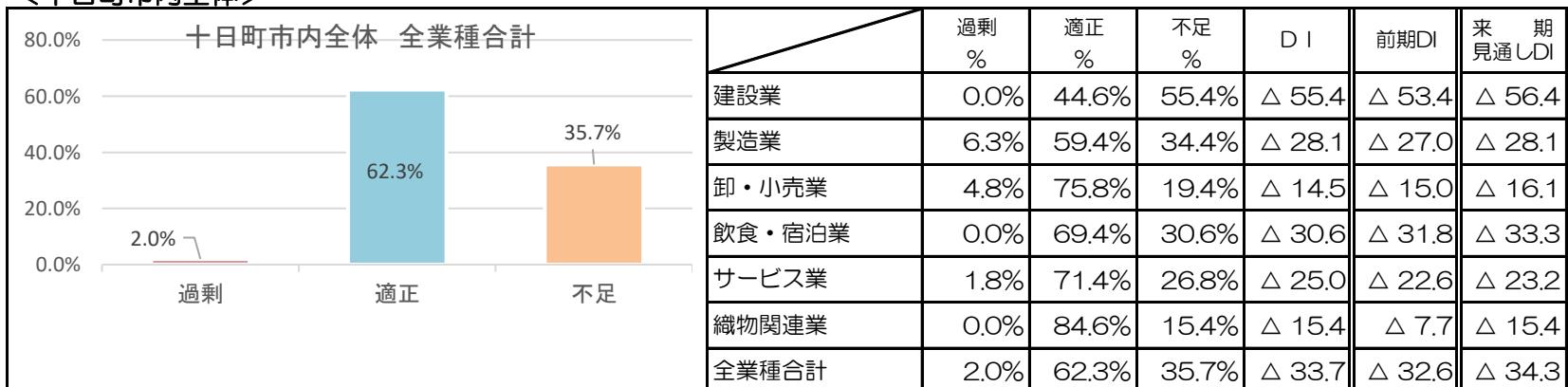
〈地区別：会議所地区〉



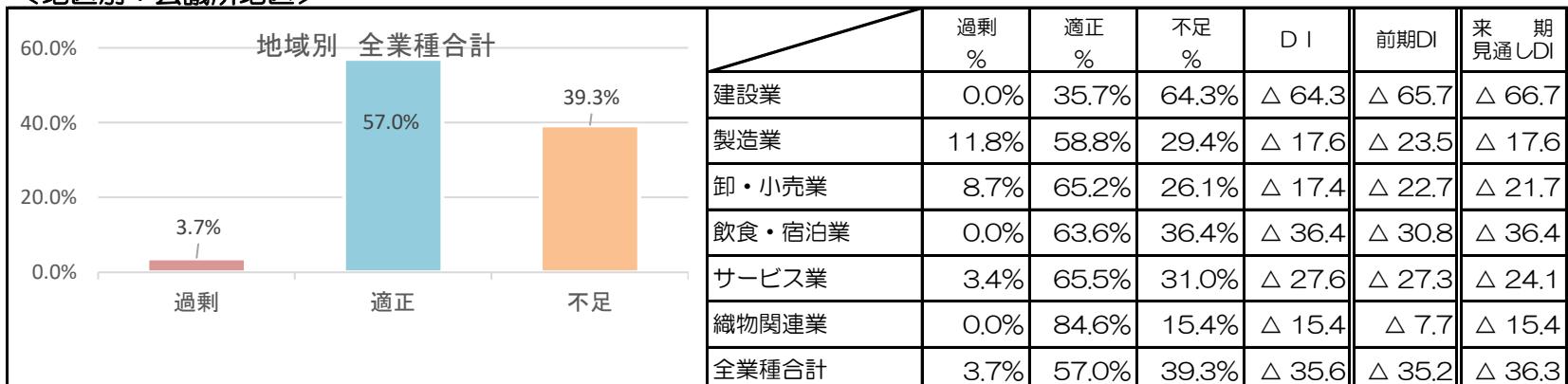
7. 従業員数について

- 7月～9月の従業員数は前年の同期に比べてどうですか？

＜十日町市内全体＞



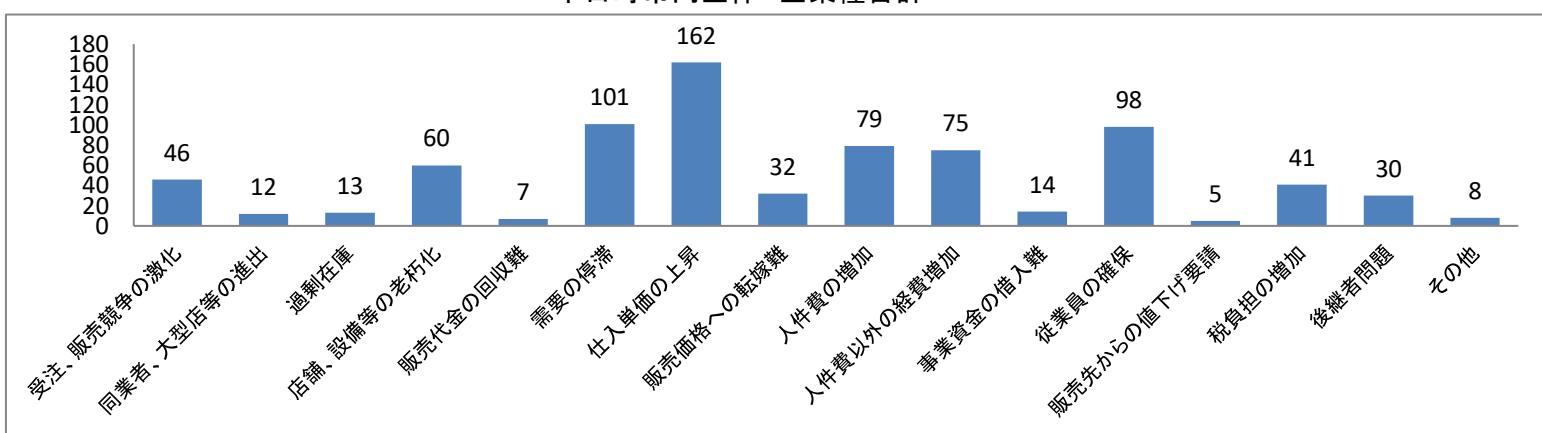
＜地区別：会議所地区＞



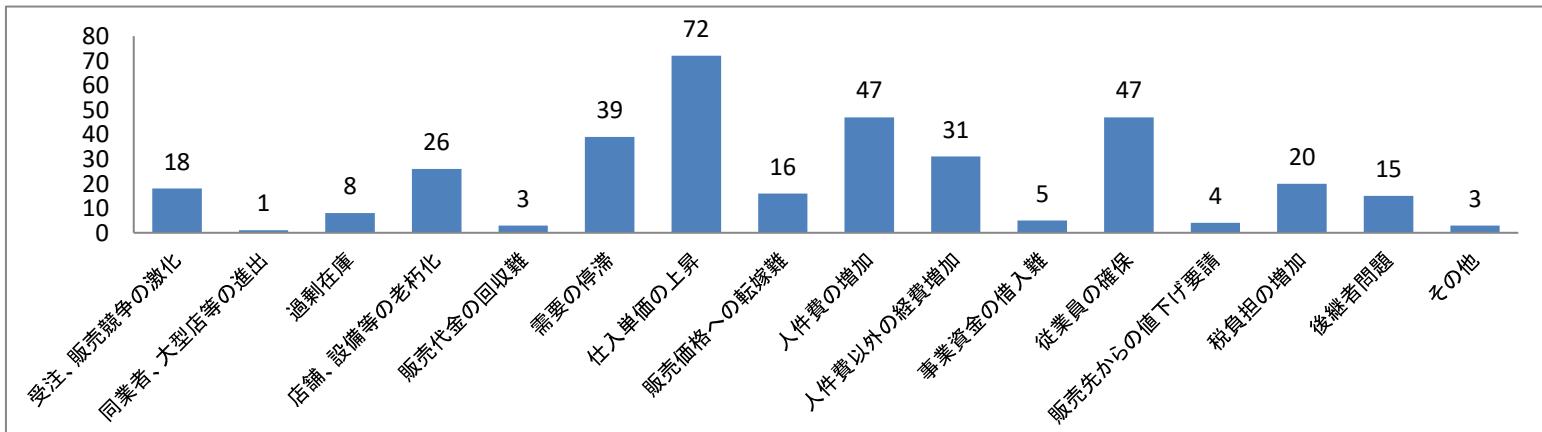
＜コメント＞今期の従業員数（雇用動向）は、前回調査より過剰回答が0.9%減少、適正回答が0.7%増加、不足回答が0.2%増加であった。会議所地区の従業員数は全業種DI値が△35.6ポイントとなり、前期からわずかに悪化し、人手不足がやや拡大した。

8. 経営上の問題点（上位3つ）：7月～9月

十日町市内全体 全業種合計



地域別 全業種合計



＜コメント＞今回調査での経営上の問題点は、1位「仕入単価の上昇」、2位「需要の停滞」、3位「従業員の確保」であった。前回調査と順位、項目ともに同じであった。仕入単価の上昇を問題点に挙げる事業者が圧倒的に多い。会議所地区の経営上の問題は、1位「仕入単価の上昇」、2位「人件費の増加」と「従業員の確保」、3位「需要の停滞」であった。仕入単価の上昇が深刻である。

9. 地区の景況概要

・7月～9月時点での全体概況は

【建設業】建設業の景況判断DIは△50.0で、前期(△40.0)からさらに悪化した。売上DIは△19.0で前期とほぼ変わらず、採算DIは△19.0で前期比6.7ポイント改善している。最大の懸念は深刻な人手不足で、従業員数DIは△64.3と全業種で最も低い。「従業員の確保」(14件)が経営上の最大課題で、「需要の停滞」(10件)、「受注・販売競争の激化」(8件)が続く。来期見通しでは景況判断は改善が見込まれるが、売上・採算・資金繰りは悪化する予測となっている。

【製造業】製造業の景況判断DIは今期△41.2で、前期(△11.8)から△29.4ポイントと悪化した。売上DI(△17.6)も前期比△11.8ポイント悪化し、採算DI(△29.4)は前期(0.0)から大幅に悪化している。仕入単価DIは△52.9で前期(△64.7)から11.8ポイント改善したが、販売単価DIは5.9と前期から△29.4ポイント悪化し、価格転嫁の難しさが浮き彫りになった。経営上の問題点は「仕入単価の上昇」(14件)が最多で、「需要の停滞」(7件)、「従業員の確保」(5件)が続く。来期見通しでは売上・採算・景況判断のいずれも改善を見込んでいる。

【卸・小売業】卸・小売業の景況判断DIは△50.0で、前期(△47.8)からほぼ横ばいの低水準が続いている。売上DIは△8.3で前期比9.1ポイント改善したが、採算DIは△20.8と依然として悪化傾向にある。コスト面では仕入単価DIが△91.7と突出して高く、前期比でさらに悪化した。販売単価DIは43.5で前期比17.4ポイント上昇し、価格転嫁は進んでいる。最大の課題は「仕入単価の上昇」(26件)が圧倒的多数で、「需要の停滞」(5件)、「従業員の確保」(5件)が続く。来期見通しでは売上・採算・販売単価のいずれも悪化が予測される。

【飲食・宿泊業】飲食・宿泊業は売上DIが27.3(前期比+58.0)、採算DIが18.2(前期比+41.3)と大幅に改善した。景況判断DIも△30.0で前期から小幅に改善した。一方で仕入単価DIは△100.0と全回答者が「上昇」と回答し、コスト環境は極めて厳しい。販売単価DIは72.7(+49.7)と大きく上昇し、価格転嫁が進んでいる。主要課題は「仕入単価の上昇」(17件)と「人件費の増加」(9件)が中心で、「需要の停滞」(7件)が続く。来期見通しでは売上・販売単価が大幅に減少し、採算も悪化する一方、資金繰りDIは27.3と好転する見込み。

【サービス業】サービス業の景況判断DIは今期△27.6で、前期(△9.1)から△18.5ポイントと大幅に悪化した。売上DIは△3.4でわずかなマイナスだが、前期比では5.6ポイント改善している。一方、採算DIは△13.8と悪化が進み、前期(4.5)から△18.3ポイント低下した。仕入単価DIは△48.1で前期比16.9ポイント改善したが、依然としてコスト増が重い。最大の課題は前回と同じく「需要の停滞」(14件)で、顧客獲得難が続いている。「従業員の確保」(10件)と「人件費の増加」(10件)も深刻だ。来期見通しでは売上は横ばい、採算は悪化が続く。

【織物関連業】織物関連業は、売上(今期DI△61.5)、採算(△30.8)、景況判断(△38.5)のいずれも大幅なマイナス圏で推移し、依然として厳しい状況が続いている。特に売上DIは前期比で△30.8ポイントと大きく悪化した。仕入単価は今期DI△76.9と高止まりしており、コスト高の圧迫が継続しているが、前期比では7.7ポイント改善している。経営上の問題点は「需要の停滞」(4件)が最多で、「仕入単価の上昇」(3件)、「従業員の確保」(3件)が続く。来期の景況見通し(△38.5)や主要項目の見通しは今期から横ばいで、急速な改善は見込みづらい。